

期待しよう！そしてみんなで 見張ろう！行財政健全化計画

前原市の経常収支比率が十七年度には九四・二%^{※2}（県内平均九四・八%十六年度）と高い水準になり、硬直化の現象を示しています。固定費ともいえる経常的経費（人件費・物件費・公債費・補助費等）にそのほとんどが使われ、自由にその用途が決められるのはわずかな金額です。

幸い前原市の人口は増えています。この事態は喜ばしいことです。しかもまたでいわれる高齢化率も一六・二%（全国平均二〇・二%）と全国平均を下まわっています。

前原市の一般会計予算もこのような厳しい台所事情の下で組まれているのです。ハードとソフト（建設終了、ソフト中心へ）をスローガンに市民や子どもたちへの思いやり予算、地場産業や新しいまちづくりへの思いやり予算、そして環境や女性への思いやり予算と大変苦心しながらの予算作成作業です。

一方、この思いやり予算に充当するための削減項目には、市長を始め、全職員の手当を言む給与の力ツト、議員報酬の削減、退職者の不補充、民間委託の推進、物件費の削減、又各種補助金・負担金の

削減等と約三億三千万円（十七年度比）の歳出削減の効果が見込まれています。

今後これからの成果を皆さんと一緒に監視して行きたいと思えます。

中央ルート建設は果たして 税金の無駄使いか？



九州大学学術研究都市構想イメージ図より

国の二〇〇七年度政府予算案が発表されました。景気回復を裏付ける（私にはこの実感はない）かのように、税収が前年度対比一六・五%ものプラス計上されています。

前原市にとってこの企業が支払う法人税額が極めて低く、県内都市平均を一〇〇とする四〇で、山田市の次に低いのが現状です。

このような緊縮予算の中、無駄を省き、使い方の優先順位を再検討する事は重要です。ただそれだけで明るい元氣ある前原市の未来像が見えてくるでしょうか？

ここに千載一偶のチャンスともいえる九州大学の移転が実現しました。

移転完了までにはまだ十年近くかかりそうですが大学移転を受け皿にしたサクセスストーリーを実現した先進地事例（広島大学の移転先として大学移転を受け入れた東広島市）を学び、時期を逃さず実行することで目的は達成されるのです。傍観者であったり批判家では改革は出来ません。出来ない理由を並べてもサクセスストーリーをつかむことは出来ないのです。

そのための手段の一つとして中央ルート建設が必要なのです。中央ルートの必要性はこのこと以外に既存交通の渋滞緩和、南北方向の交通網整備と多岐に渡るものです。

手をこまねいていると、いいところを全部福岡市に持っていかれる可能性があります。

では、この財政難の折りそんなお金はどこにあるんだ、無駄使いはやめた方がいいという意見もあります。

冒頭で述べましたように行政は経営であり、現在

12年制別構成

年齢・区分別人口構成比(%)

	全国			前原市		
	0-14歳 (年少人口)	15-64歳 (労働人口)	65歳以上 (老年人口)	0-14歳 (年少人口)	15-64歳 (労働人口)	65歳以上 (老年人口)
昭和25年	23.5	57.4	19.1	25.0	66.6	8.2
平成22年	13.7	59.7	26.1	21.1	67.0	11.3
平成17年	14.5	57.9	27.5	17.7	67.9	14.5
平成17年	13.3	58.0	28.2	16.2	67.6	16.2

※昭和25年、平成22年、平成17年国勢調査、平成17年前原市人口、平成17年国勢調査の国勢調査から人口推計、国勢調査、国勢調査

1. 前原市の状況

(1)平成2年を1とした場合の前原市と全国の人口推定

